

1. 使用状況

9月15日時点	
投与者数（見込み）	約27,000人
登録医療機関数	約3,900施設
うち納品実績のある医療機関数	約2,000施設

2. モデル的な取組等の進捗状況

- 緊急事態宣言地域・まん延防止等重点措置地域を中心に、都道府県の選定した医療機関に一定数を事前配布済み。
※ 緊急事態宣言・まん延防止等重点措置地域以外からの地域についても意向に応じて事前配布。（計42都道府県）
- 医療スタッフの体制を確保した宿泊療養施設等（臨時の医療施設化）においても投与を可能とし、北海道、東京都、茨城県、大阪府、愛媛県、福岡県、長崎県で開始済み。埼玉県で開始予定。
- 投与後の観察体制の確保等の一定の要件を満たした医療機関による外来投与などについても取組を開始（8/25～）。
- 外来で投与した場合の診療報酬を加算（9/7）
- 自治体（東京都・大阪府）の取組事例等について周知（9/10）
- 中和抗体薬を自宅への往診でも使えるようにしてほしいとの医療現場からの声を踏まえ、こうした現場の声を聞きながら、投与後に適切に経過観察ができることを確保するための要件等について早急に検討、対応を進める。

成分名	カシリビマブ/イムデビマブ (販売名：ロナプリーブ点滴静注)	申請企業	中外製薬
種別	中和抗体薬	投与方法	単回点滴静注
対象患者	重症化リスク因子を有する軽症から中等症 I の患者（酸素投与を要する患者を除く。）		

- 6月29日薬事承認申請。7月19日薬事・食品衛生審議会、同日特例承認。
- 米国FDAのEUA（緊急使用許可）に係るファクトシートによると、
 - ・投与中は患者をモニターするとともに、投与完了後少なくとも1時間は観察することとされている
 - ・アナフィラキシーや急性輸注反応（infusion reaction）を含む重篤な過敏症が、投与中から投与後24時間後にかけて観察されている